

知道 CHIDO-KAIHO 会報

84

編集 知道会広報委員会
〒310-0011水戸市三の丸3-10-1
茨城県立水戸第一高等学校内
発行人 角田芳夫
発行日 平成26年5月1日
通巻 第84号
メール chidokai_mito@chidokai.jp

目次	特集	生徒海外派遣プログラム	1
	一高だより	異動・進学状況ほか	4
	Person	俳優・川崎賢一氏	5
	学年・地域等同窓会	剣道部大同窓会ほか	6

生徒海外派遣プログラム結果報告



知道会の協力を得て、第1回生徒海外派遣プログラムを実施しました。今回は、3月8日から13日までシンガポールで研修を行い、16名の生徒が参加しました。5日間という

短期間でしたが、生徒は十分な事前準備に基づき、現地での交流・研修活動を行い密度の濃い有意義な海外研修を実施できました。

ジョホールバルでの学校交流では、日本のポップカルチャーと伝統文化について英語でプレゼンを行い、折り紙体験のレッスンもまじえて、現地の学生と交流しました。シンガポール国立大学では、現役の大学生とグループディスカッションを行い、社会・文化などのテーマについて話し合いました。学生の話に刺激を受け、留学や海外での仕事に興

味をもつ生徒もいました。JTBシンガポール支店では、様々な国籍の現地社員とディスカッションを行い、グローバル企業で働くことの現実や意義について理解を深めました。大学でも企業でも、現地の人々との話し合いは全て英語で行われ、語学研修という意味でも大きな成果がありました。また、今回の研修では、シンガポールの様々な企業で活躍されている知道会員の方々の懇親会もあり、先輩方から現地での体験に基づく貴重なお話をうかがうことができました。

研修の具体的な成果については、今後の報告会などで還元していきませんが、グローバル化の現実を体感し、交流・研修活動を通して、異文化理解・語学力向上そして世界に羽ばたく力の育成を図るという本研修の目的は十分に達成できたと考えています。

(引率者：加藤教諭)

参加した生徒の感想

シンガポールで学んだこと

3月8日から13日まで私たち16名はシンガポールへ海外研修に行きました。そこで一番印象に残っているのは開発の進む都市の様子です。シンガポールは東京23区と同じくらいの面積しかない都市国家です。そのせいか「やさしい北朝鮮」と呼ばれるほど政府の統制が厳しく、ポイ捨てなどには重い罰が下されるので街はとてもきれいな状態を保っています

※次ページに続く

知道会は皆さんの“会費”に支えられています —会費納入に御協力を—

知道会の活動は、会計報告(3ページに掲載)で分かる通り、年間予算約1400万円のうちの大部分が皆さんからの年会費(1人2000円)で賄われています。

しかし、約2万人の知道会会員のうち、会費納入者は約3700人、2割以下です。会員相互の交流と母校の発展のため、様々な活動を展開している知道会。その活動を支える会費について、一層の納入アップが求められています。

納入率トップは昭33卒

昨期(62期、H24.10.1～H25.9.30)の会費納入状況について、納入率の高い順に見ると次のとおり。

- 1位 昭33卒 37%(117人)
- 2位 昭39卒 36%(129人)
- 3位 昭36卒 36%(121人)

上位3位までが昭和三十年代です。毎年のように同窓会を開いている学年もあります。

今期から母校助成に海外派遣事業加わる

知道会活動の柱の一つが母校助成。これまで、卒業記念品や卒業生褒章、各種大会への参加費用助成が中心でしたが、今期から「生徒海外派遣プログラム」に対して助成をしています。生徒の国際的な視野を広げる新たなプログラム。会員の皆さんには、会報を通して生徒の声をお届けします。

会費納入は口座振替で

会費の納入には、同封の振込用紙をお使いいただくほか、口座振替が利用できます。振込用紙のメモ欄の「口座振替依頼書希望」の箇所にチェック☑を入れてください。後日申込書類をお送りします。

その他、会費納入のご相談ご連絡は、知道会事務局までお願いいたします。

す。一方で、多民族国家という顔をもつシンガポールは、海外の会社や企業を誘致するために法人税を低く設定するなどのあらゆる政策を行っているため、オフィス街ではあらゆる人種の人々が行き交い仕事をしています。国土面積が狭いので高層ビルが立ち並び、オフィスだけをシンガポールに置く企業も多いようです。街をよく見渡すと、工事現場で働く人はマレーシアやインドの人々です。彼らは出稼ぎ労働者でシンガポールの発展には彼らの働きが必要不可欠です。シンガポールの発展はいくつもの努力の上に成り立っているのです。

こうして6日間シンガポールのいろいろな面をみて感じたことは、理解することの大切さです。私はつたない英語しか話せませんでした。現地の人々は私の伝えたいことを精一杯理解しようとしてくれました。おかげで彼らと良い関係を築くことができました。その上、彼らは海外の情勢や自国の行政も積極的に理解しようとしていました。これにより自分たちが今何をすべきなのか知ることができるので、これが経済の発展につながっているのだと思います。



この研修で私たちはとても貴重な体験ができました。これを生かしてこの先もまた多くの経験ができればと思います。

(2年：鎌田りん)

シンガポール海外研修を終えて

シンガポールの文化は、私がこれまで全く触れたことのない新鮮なものでした。研修初日の市内研修では、シンガポール国立博物館やヒンドゥー教の寺院、インド系の人々が多く住む町やイスラムのモスクなどを見て回り、シンガポールの文化に触れたのですが、中華系をはじめ多くの民族の人々が暮らし、それぞれの民族の文化が狭い国土に混在していました。彼らは皆シンガポール国民ですが、一人ひとりが自分の民族特有の文化や価値観を持っていることに

私はとても驚きました。

一方で、彼らの生活には大きな共通点もありました。それは英語です。2日目のマレーシア・南方学院での学校交流や、3日目のシンガポール国立大学(NSU)の学生との交流、最終日のJTBでのグループディスカッションでは、現地の方々は皆堪能な英語で会話していました。街中を歩いても、民族にかかわらず英語で会話している人は多くみられました。

さらに、これらの活動の中で、シンガポールに住む人々の多くは国際的な視点を持って生活していることを痛感しました。アジアのビジネスの拠点であるシンガポールは外国人もまた多く生活しています。そのような環境で生活することで、英語も含め、彼らは国際社会そのものの中で価値観をはぐくんでいるのです。

社会の国際化は今や世界で進む大きな流れとなっています。その流れの中にあって私たち日本人の視野は内向きになりがちです。シンガポールに倣い、国際社会に積極的に触れて理解を深めていくことが不可欠であると実感しました。

(2年：井上達彦)

平成25年度「会員の集い」を開催

平成25年11月9日(土)、321人の参加を得て、水戸京成ホテルで会員の集いが開かれた。

まずは、講師に太田英明氏(昭57卒・文化放送制作部次長・アナウンサー)を迎えての講演会で幕開け。氏は演題を「ラジオの裏側、全てお話しします!!!」～安倍首相から壇蜜まで



災害時におけるラジオの有用性を熱く語る太田英明氏

～」として硬軟取り混ぜた軽妙なトークで会場を沸かせ、一方、東日本大震災発生時のラジオ放送を流しつつ災害時のラジオの有用性を熱く語って、大きな拍手を受けた。

続いての懇親会は、担当学年の住谷則昭(平4卒)氏が司会進行。角田会長(昭28卒)、小田部学校長(昭48卒)の挨拶の後に、安島 榮さん(昭17卒)が乾杯の発声をしてなごやかな懇談の時間となった。

懇親会の最初のイベントは、勝山一美氏(昭22卒)によるマジックで中村彦蔵氏(昭37卒)が助演した。続いて、橋本昌県知事(昭39卒)が



集いの最後に担当学年の引継があった

挨拶、吹奏楽部OBによる演奏が行われた。また、最後に岡田裕貴(平4卒)応援団長によるダッシュ水高の演舞があった。

集いの最後には、担当学年の引継ぎが行われた。来年の担当学年は、昭和58卒、平成5卒、平成15卒となる。鈴木和彦氏(昭57卒)から軍配が角田会長に返却され、来年の担当学年代表石井康司氏(昭58卒)に角田会長から軍配が渡された。

第63期第31回代議員会

第63期（平成25年10月～平成26年9月）第31回代議員会が、平成25年11月9日（土）13：30から水戸京成ホテルにおいて、「知道会会員の集い」の前に開催されました。審議等概要は以下のとおりです。

- (1) 栗原幹事長から各委員会、学年・地域・職域知道会の活動状況を含めて第62期（平成24年10月～平成25年9月）事業報告及び第63期事業計画案が説明され、了承されました。
- (2) 財務委員会・西山委員長より第62期収支決算報告があり、承認されました。
- (3) 西山委員長から第63期予算案が説明され、承認されました。
- (4) 小田部校長から生徒海外派遣プログラムについて、準備の経過と今後の計画の説明があり、質疑応答が行われました。
- (5) 第64期（平成26年10月～平成27年9月）第33回代議員会を、平成26年11月22日（土）、13：30から水戸京成ホテルで開催することとなりました。

会計報告 第62期 H24.10.1～H25.9.30 第63期 H25.10.1～H26.9.30

項目	第62期決算額	第63期予算額
収入の部		
年会費	9,478,000	10,000,000
卒業生入会金	1,610,000	1,600,000
寄附金収入	877,000	200,000
会員の集い会費	1,785,000	1,500,000
受取利息	15,315	20,000
特別積立金取崩	600,000	1,000,000
義援金会計から繰入	-	1,200,000
雑収入	90,930	50,000
前期繰越金	129,264	83,205
収入合計	14,585,509	15,653,205
支出の部		
運営費	(12,631,947)	(12,590,000)
会員の集い費	1,846,297	2,000,000
会議費	179,758	100,000
事務局運営費	2,101,629	2,200,000
通信費	3,055,675	3,050,000
消耗品費	52,682	80,000
旅費交通費	166,880	150,000
渉外費	118,546	100,000
支部強化費	460,000	500,000
振替手数料	446,894	470,000
印刷費	3,953,703	3,700,000
リース料	249,883	240,000
事業費	(649,171)	(675,000)
総務委員会費	77,095	65,000
財務委員会費	20,000	20,000
広報委員会費	160,880	180,000
名簿委員会費	10,000	10,000
親睦委員会費	279,395	200,000
女性会員活性化費	101,801	200,000
母校助成費	(1,221,186)	(2,320,000)
卒業記念品費	497,177	500,000
大会補助金	497,334	400,000
卒業生褒賞費	226,675	220,000
海外派遣助成費	-	1,200,000
特別積立金繰入	0	0
予備費	0	68,205
次期繰越金	0	0
支出合計	14,585,509	15,653,205

平成26年度会員の集い

平成26年度知道会「会員の集い」は、以下のとおり開催する予定です。
多くの会員の皆様のご参加をお待ちしています。

日時：平成26年11月22日（土）

場所：水戸京成ホテル

担当学年：昭和58年、平成5年、平成15年卒の皆さん

会員の集い担当学年からのメッセージ

昭和58年卒

58年卒実行委員を代表しまして、ご挨拶させていただきます。

私達が入学する数年前に創立百周年をむかえ、記念事業として知道会館が建設されました。

まだ真新しい知道会館の立派な建物に感動しながら、入学式に臨み胸を躍らせて教室へと入り新しい友人ができ、ピッカピカの新入生でありました私達が今年50歳になります。

この半世紀の集大成としまして「知道会会員の集い」の実行委員をさせていただけるということは、大変光栄なことではありますが、大役過ぎて困惑しているところもあります。

しかし、先輩方から仰せつかった大役に一生懸命に務めあげ後輩の皆様を引き継ぎ、知道会・水戸一高の永遠なる発展へとつながるように頑張っております。

58年の同期は多種多様な人材に恵まれ、人材の宝庫と自負しております。

なかでも、作家「恩田 陸」は皆様ご存じのとおり日本を代表するミステリー作家であり、過去に数度も直木賞候補となっています。（今度こそと同期一同切望しておりますが…）今回の集いにも案内はしておりますが、かなり多忙な執筆活動のため参加できるかどうかは、当日にならないとわかりません。参加することができましたら、皆様にもご紹介したいと思います。

58年卒一同全員で頑張りますので、どうか皆様、先輩・同期・後輩にお声をかけていただき参加者400名を超す「知道会会員の集い」となるようにご協力をよろしくお願い致します。

昭58年卒 黒木 雅宏

平成5年卒

幹事：35組 鹿志村茂、37組 坪井正幸

私たちが高校に入学した平成2年は、東西ドイツの統一、かの「スラムダンク」の連載スタートの年でした。

そして、3年生として過ごした平成4年には、バブル景気が終結し、いわゆる就職氷河期に突入りとなりました。また、学校週

5日制がスタートし（最初は月1回）、年を同じくする松井秀樹氏が甲子園で5打席連続敬遠されたのもこの年でした。

今回、高校生活を自分なりに振り返ってみました。ラグビー部の仲間達との思い出をはじめ、歩く会、学苑祭、三の丸音楽祭（現在休止状態）、クラスマッチ、サイドリーダーテスト、お世話になった先生方などなど、卒業して20年、おぼろげながら過ぎ去りし日々がよみがえってきました。

でも、何より鮮明に覚えていたのは、入学最初の衝撃でした。クラスに入ってくるのは、待てども男子ばかり。そして、男子でクラスがうまった時に、男子クラスの存在を知りました。当時の私たちの学年は400人を少し超え、そのうち女子は4分の1程度でした。現在は、女子の比率はかなり高く、基本的には男子クラスはないとのこと。

さて、平成5年卒の皆さん、幹事学年ということで、会員の集い終了後、同窓会も開催予定ですので、多くの参加をお待ちしています。

平5年卒 坪井 正幸

平成15年卒

平成15年3月の卒業以来、気付けば11年が経過。時間が立つのは早い…などと言ったら、「まだまだ若かりうに」と諸先輩方からお叱りを受けてしまうでしょうか。

水戸一高時代に思い出深いのが、「日韓共催サッカーワールドカップ」。体育館で流された映像に皆が熱狂し、水戸一高の枠を超え日本国民としての一体感を感じました。クイズ研究会の「クイズタイムショック」出演で、巨大なセットとともにテレビ朝日が収録にやって来た、なんてこともありました。私はただの観客でしたが、思い返してみれば貴重な体験をさせてもらったものです。

話を現在に戻しますが、卒業後10年以上が経った今でもたくさんの同級生と顔を合わせるという方、残念ながら少数派ではないかと想像します。「会おうと思えばいつでも…」と考えているとまた次の10年があるという間に過ぎ、いつそう疎遠になってしまうのは怖く感じます。

平成15年卒は今年が幹事学年になります。ここ数年では、おそらく最も多くの同級生が顔を合わせる場になるのではないかと思います。かつての思い出を呼び起こし、更には将来に見据える夢を共有できる場において、たくさんの方々にお会いできることを心より願っております。

平15年卒 木村 優太



EVENTS

平成25年

10月

12日、13日 水戸一高歩く会
(東海コース)

16日 昭37年卒古希記念同窓会

18日 総務委員会平成25年度「集
い」第5回実行委員会

26日 第1回知道会幹事会

11月

2日 日立知道会

9日 知道会会員の集い・代議
員会
昭26、昭35、昭41、昭57、
平4、平14年卒同窓会

16日 桜川市知道会

18日 税理士知道会

23日 昭49年卒同窓会

24日 瓜連知道会

30日 医水会

12月

1日 みつば知道会忘年会

7日 西日本水中一高会

平成26年

1月

2日 昭39年卒同窓会

15日 総務委員会集い反省会・引
継会

18日 昭31年卒同窓会

26日 常陸大宮知道会

27日 広報委員会

2月

11日 みつば知道会新年会

22日 東京知道会同窓の集い

3月

1日 水戸一高卒業式

4日 昭34年卒同窓会

15日 五軒知道会

4月

8日 水戸一高入学式

19日 第2回幹事会

20日 みつば知道会総会

23日 総務委員会平成26年度「集
い」第1回実行委員会

平成26年度定期人事異動

次の方々が異動された。

1 退職(教科および在職年数)

柴 沼 伸 明	数 学	15年
田 口 裕 美	養 護	3年

2 転出(※は再任用)

※木 戸 明 良	副校長	4年	水戸三高へ
※関 根 利 一	国 語	12年	多賀高へ
※町 田 博 文	美 術	18年	笠間高校へ
佐 藤 貴 弘	数 学	8年	牛久高へ
深 澤 美 紀 代	理 科	9年	高校教育課へ
平 野 敬 靖	保 体	5年	保健体育課へ
住 谷 博 史	数 学	8年	高校教育課へ
南指原 浩 信	数 学	9年	竹園高へ
中 里 留 美	英 語	9年	太田一高へ

3 転入(学校名は前任校)

石 川 格	副校長	勝田高
小 島 淳	国 語	日立一高
島 田 道 昭	数 学	岩井高
竹 内 智 則	数 学	牛久栄進高
佐々木 豪	数 学	常陸大宮高
川 村 学	数 学	太田二高
太 田 泰 助	美 術	取手松陽高
小 澤 剛	英 語	日立一高
海老澤 恭 子	養 護	友部高
國府田 宏 輔	理 科	土浦一高
小 林 亮 太	保 体	石岡中
綿 引 隆 文	理 科	
渡 邊 大 介	保 体	
郡 司 法 子	保 体	

入試結果と進路状況

主な大学の合格者数を以下に記す。()内は現役合格者数。

○国立大学

北海道大	8(5)
東北大	46(31)
茨城大	25(21)
筑波大	31(21)
千葉大	11(8)
お茶の水女子大	1(1)

東京大	19(15)
東京外語大	4(3)
東京工業大	10(5)
一橋大	8(7)
京大	3(2)
大阪大	5(2)

○私立大学

青山学院大	25(9)
慶應義塾大	25(9)
上智大	19(14)
中央大	41(23)
東京理科大	105(32)
法政大	57(24)
明治大	92(38)
立教大	37(20)
早稲田大	81(35)

○医学部医学科

国公立	18(4)
私立	12(1)
準大学	2(1)

(平成26年4月1日現在)

平成26年度入学状況

平成26年4月8日、茨城県立水戸第一高等学校入学式が挙行されました。

324名が入学を許可され、本校での第1歩を踏み出しました。

時代は今、激しい変動の時期、大きな変化の時期を迎えています。これまでの様々な概念が揺らぎ、不確かな中で未来を模索しています。また、グローバル化が進み、広く世界で活躍できるタフな人材の育成が求められています。

新入生324名には、136年の歴史と伝統を誇る水戸一高の、もっとも若い力として、本校の未来を創る活躍をされることを期待しています。そして、将来に渡り、広く世界で活躍できる人材となることを祈っています。

私たち学年団は、これから3年間、彼らの活躍と成長を信じ、関わり続けていきたいと思っております。

知道会の皆様には、後輩たちの成長を温かく見守り、ご支援賜りますようお願いいたします。

(1学年主任 木城教諭)



俳優 川崎賢一さん

(平2卒)

2014年1月25日(土)から2月2日(日)にかけて、水戸芸術館ACM劇場で上演された「未来サポートプロジェクトVOL1『息子たち』」に俳優・川崎賢一さんが出演しましたので、訪問してお話を伺いました。川崎さんは、1971年7月28日生まれ。テレビや映画、舞台で活躍中です。

聞き手：橋川栄作(昭56卒 広報委員)

Q 今回の『息子たち』に出演されたきっかけは。

A オーディションです。受けた時には30人ぐらいオーディションに来ていました。その後、12月後半から現在まで1か月稽古しました。

Q 俳優として生きていくと決めたのはいつですか。

A 大学に進んでもまもなくです。水戸一高では真剣にラグビーをやっていました。いい高校時代の雰囲気を持続しなかった。エンターテインメントの世界に入って、1日でも楽しみ、しかも楽しみを与える仕事をしたいと思ったんです。大学は辞め、20歳の時ニューヨークの演劇学校に行き、25歳で日本に帰ってきました。アメリカにいた3年間で、日本の素晴らしさを再認識しました。

Q 日本に帰ってから、どうされましたか。

A 日本でのキャリアやつてがありませんでした。そこで知道会の話になりますが、深作欣二監督の記事を見て、成城のご自宅に手紙を書いたら2日後に電話がありました。「手紙ありがとう、大変な世界だぞ。本気でやるなら頑張れ。アメリカでやっているのが関係ないよ。日本は日本のやり方があるんだから頑張れ」と。感動しました。一高の仲間は連帯感や助け合う気持ちがあります。ラグビー部だったので野球部やサッカー部の仲間と25年も新年会が続いています。

Q 影響された監督さんはいらっしゃいますか。

A 豊田利晃監督にずっとお世話になっています。彼のデビュー作に出演し、それが日本映画監督協会の新人賞を取ったんです。それと、最新作「クローズEXPLODE」にも出演しました。

Q 映画と演劇は違うものですか。

A 根本の俳優の考え方は一緒です

が、技術が違います。テレビドラマはNGを出さず一発で決めないと通用しません。お芝居は1か月稽古があるのでいいですが、どちらも好きじゃないとやれないです。映画の現場も過酷です。

Q これからの抱負を教えてください。

A 1日でも長く俳優を続けたい。一昨年からグリコのCMに出演しています。水戸芸術館の企画にも縁があったら出演したいです。

Q 後輩へのメッセージをお願いします。

A 一高の時ほどほったらかしにされた時間はないですね。そういう時こそ、自分が興味のあることが発見できれば財産になります。是非、見つけてください。

女子座談会に参加して

—先輩方の現役感到感激—

昨年8月の女子座談会に参加してくれた高倉万侑(現高3)さんと佐川日南乃(現高3)さんから手紙をもらい、話を聞きました。二人とも共学になって間もない頃の様子を知ったことで、現在の自分たちの生活を振り返る機会にできたようです。

「女子である私が現在、当たり前のように共学の水戸一高に入学し、何不自由のない環境で生活している。しかし、それは当たり前ではなく、長年のたくさんの方々の我慢や努力の上にやっと成り立った環境であると実感した」(佐川)

そして二人とも、女子2期生の大先輩の現役感到驚嘆し、高校時代の過ごし方の近さ、話や感覚に違和感がないことも話してくれました。

「学校で女子は数えるほどという環境でも、クラスマッチや野球応援、歩く会に参加していたと知り、時代を越えて受け継がれる水戸一高の伝統の“すごさ”を感じることができました」「男女区別なく青春を過ごせるという“伝統”を受け継ぐ、この水戸一高にいる誇りを感じました」(高倉)

15回目に向けて

もう一つの歩く会

(平成25年10月11日実施)

これは現役に負けず歩く会、OB歩く会のことである。元水戸一高の体育教師であり在学中は歩く会の実行委員でもあった枝弘道氏(昭31卒、旧姓鶴田)が、平成12年より同級生を勧誘して始められ、早くも14年目となる。

今回は、矢祭山より大子、袋田、上小川、山方宿、大宮と南下して水戸一高をめざすコースであった。参加メンバーは、幹事役の枝氏、塚田氏(元衆議院議員)、県ウォーキング協会副会長の川上氏(昭23卒)、県庁OBの林氏(昭33卒)、村井田氏(昭34卒)、笠間市議会議員の畑岡氏(昭53卒)、紅一点の古平氏。

銘酒「久慈の山」で知られる山方宿の根本酒造へは午後7時ごろ到着。根本嘉朗氏(昭31卒)、社長の朗祐氏(昭59卒)や小室氏(昭31卒 旧姓豊田)等のOBが懇親会まで開いてくださった。汗を流した後の銘酒はたまらないほどにおいしく、歓待に感謝をしながら幸福感に酔った。

平成26年10月に第15回目を計画、大子駅からの出発が検討されている。水戸一高OBであればどなたでも大歓迎、ぜひご参加ください。水郡線で体力に応じてリタイヤできるアクセスもあります。

堀江効(昭34卒) 記
連絡先 枝弘道 水戸市元吉田1655-3
TEL029-247-4633



佐川日南乃さん



高倉万侑さん

世代を超えた出会いの中で、自分たちにとっての課題も意識したようです。

「『当時は生きることに全力を注がなくてはならなかったから、逆に、本当に大切なことは見えていた』というお話を伺った。現在多くのものがあふれ、そこから好きなように選べる時代に生きている私たちには、より一層『本当に大切なこと』を捉える力が必要になってきているように感じる」(佐川)という文章に、私たちがほっとさせられるものがあります。

「男子の中に飛び込む。とても勇気のいることだと思いますが、その中で共に学び、切磋琢磨された当時の女子の強さがあったからこそ、今こうして私たちがいるのかも知れません」「私も世界に羽ばたく強き女性になりたいです」(高倉)という言葉に、エールを送ります。

広報副委員長 宮内寿子

S57卒同窓会

我々昭和57年卒業生は知道会会員の集いにおいて50歳の節目にあたる幹事学年として最後のお役目を果たさせていただきました。

講演は(株)文化放送の看板アナウンサー、太田英明君が多忙なスケジュールの合間を縫ってラジオの舞台裏の楽しい話、為になる話で会場を大いに沸かせました。幹事学年の軍配も無事、鈴木和彦君から昭和58年卒の石井康司君へ引き継がれ、一同ほっとした次第です。

そして、その集いの後、会場を水戸京成ホテル最上階のオーキッドに移し、学年同窓会を行いました。

この日は90余名の同級生が参加し、また担任であられました伊澤先生、茂木先生、中村先生お三方のご臨席を賜り、鈴木和彦君の乾杯の発声の後、楽しい会が始まり、各クラス毎にステージに上がり、各々の近況などを各自発表しあいました。31年ぶりに会わせる顔も多く、名札とかすかな面影(笑)で確認しあうという光景も見受けられ、時間はアツという間に過ぎ、一次会お開きの後、場所を「地下のしまだ」にて二次会を行いました。ここにも70名を超える参加者で大賑わい！楽しいひとときを過ごし、その後も「夜はまだまだ長い!!」と三次会へと三々五々、夜の街へと流れていきました。「次回は5年後の55歳の節目にまた会いましょう！」と誰ともなく声があがり、再会を期してのしばしの別れとなりました。

(深谷 記)

平成4年卒学年同窓会

平成4年卒の学年同窓会は、平成25年11月9日(土)18時半より、テラスザガーデン水戸にて開催されました。総勢33名の参加ということで人数的には少な目でしたが、女性の方の参加比率が高かったこともあり、非常に華やかで一体感のある同



窓会となりました。皆々の顔を見ながら話をしていると、一高時代の記憶が鮮明に思い出され、卒業から20年以上の月日が経過したとはとても思えません。また、40歳という年齢になった同窓生の皆々は、各々の分野で主力として活躍されており、大きな刺激を受けました。

会の締めは「集い」でも大活躍だった我が学年の応援団長、岡田裕貴さんのコールとともに、校歌を歌いお開きとなりました。岡田さん、大変お疲れ様でした。

わずか2時間程の同窓会ではありましたが、とても濃密な時間でした。改めて、水戸一高の卒業生であることに感謝することができた一日となりました。

最後に、平成4年卒の皆様、次回同窓会には是非ご参加ください。
(住谷則昭 記)

平成14年卒同窓会

11月9日、会員の集いの後に開催された平成14年卒同窓会は、ホテルテラスザガーデン水戸に知道会の栗原幹事長、国会議員の藤田幸久様、6名の恩師の先生方のご臨席を賜り、同窓生95名が出席し盛大に開催されました。



冒頭、幹事の住谷直樹君(33組)作成のオープニングムービーから始まった会合は、在学当時放送部が作成した水戸一高の紹介VTRの上映や、恩師の先生への花束贈呈など、瀧口泉さん(36組)の名司会のおかげもありスムーズに進み、最後に全員で記念撮影をして中締めとなりました。

今年は私達の30歳という節目の年であり、初めての学年同窓会ということで、無事開催することができるか大変不安でしたが、当日、大勢集まってくれた同窓生の顔を見た瞬間、懐かしさや嬉しさがこみ上げ、不安は一気に氷解しました。

その後、水戸駅付近で開催された二次会においては、幹事の予想を大

きく超え、64名の同窓生の出席をいただき、夜遅くまで語り合うことができました。

ご参加いただいた来賓の皆様、同窓生の皆様に、この場をお借りして心から御礼申し上げます。(33組 住谷直樹、細田明俊 36組 根本龍典 39組 白土智宏)

東京知道会同窓の集い

去る2月22日、大手町サンケイプラザにて、東京知道会「同窓の集い」が開催されました。今年度は昭和60年卒が幹事学年となり、約250名の参加を得ました。

年次総会では、助川裕東京知道会会長による挨拶、会務報告に続き、来賓を代表して角田芳夫知道会会長、小田部幹夫水戸一高学校長が祝辞を述べられました。第二部は、東本願寺研修部補導主任の木名瀬勝さん(昭和60年卒)が講師を務め、「茨城と親鸞」について講演を行いました。続く懇親会では、手作りのビデオの上映や利き酒コーナー等の企画もあり、大盛況のうちにお開きとなりました。

東京知道会では、2年前の事務所閉鎖によりコスト削減を図る一方で、組織力強化と若手高揚のための取り組みを強化してまいりました。さらに、組織委員会では、Facebook上に約500名の同窓生が参加する交流の場を作成しています。これらの成果もあって、今年度の「同窓の集い」の参加者は、昭和61年以降の卒業生が20%強、女性が約25%となりました。

今年からオフィシャルな会として企画された二次会には、予想を上回る約120人が参加し、20時頃まで世代を超えた交流が続きました。来年の「同窓の集い」は、2月21日(土)に開催の予定です。地元からの同窓生の参加をお待ちしております。
東京知道会 会報委員長 保坂賢司(昭55卒)



西日本水中一高会

西日本水中一高会では、昨年12月7日(土)に大阪第1ホテル(マルビル)で総会・懇親会が開催されました。小田部幹夫・水戸一高校長、古平恒夫・知道会事務局長、谷田海孝男・東京知道会幹事長にもご臨席いただき、40余名の出席者で盛会でした。

総会では、加藤武雄・会長(昭33卒)から朝日一・新会長(昭41卒)へとバトンタッチされました。新執行部は、副会長に佐藤陽子(昭41卒)、伊原郁夫(昭41卒)、廣瀬峰太郎(昭42卒)、中崎好文(昭45卒)、迎純嗣(昭46卒)、幹事長に尾城徹雄(昭58卒)が就任し、他に幹事17名(学生幹事2名を含む)が承認されました。

懇談会では、上は水戸中学昭和23年卒の大先輩から下は大学1年生の同窓生がテーブルを回り歩いて交流が行われました。2次会は同窓生の一人が経営する居酒屋で夜遅くまで歓談が続きました。

新執行部発足に前後して、会のホームページ(HP)が立ち上げられました。ネットで「西日本水中一高会」と検索すると容易にアクセスできます。会員相互の情報の共有、新しい会員の獲得、水戸一高現役卒業生への情報発信に有益と思われます。この他に、西日本水中一高会では例年、西日本から転出の同窓生、大学卒業生に対する歓送会を2~3月に、西日本への転入の同窓生、大学新入生への歓迎会を5~6月に行っていますが、3月15日には京都で「大学卒業生と異動される方をお送りする会」が開催されました。朝日一(昭41卒)



五軒知道会総会

3月15日(土)17:00 京成百貨店9階のバンケットホールに於きまして、五軒知道会総会が開催されました。

当日は、古平知道会事務局長、木戸副校長、各地域知道会代表の皆様



をご来賓としてお迎えし、総勢30名の参加となり、大金誠会長(42年卒)による開会の挨拶に始まり、講演会は、三上靖彦様(52年卒)『水戸のまちなかの今後』の演題により水戸の歴史・魅力・発展性などにつきまして講演いただきました。

懇親会では、会長・来賓の皆様と共に木内酒造様提供樽にて鏡開きをおこない、会員相互の深く楽しい交流を致しました。

閉会は、水戸一高校歌を全員にて斉唱し、エールにて散会しました。来年も3月に開催する予定でありますので、皆様奮ってご参加ください。(五軒知道会 事務局 黒木 雅宏)

剣道部大同窓会

去る1月11日(土)に、三の丸ホテル(水戸市)にて剣道部OB会設立総会・記念講演会と合わせ、大同

窓会が開催されました。

大同窓会の開催は5年ぶり。前回は平成21年1月に水戸一高創立130周年を機に開催され、OB会の設立に向けた機運が高まり、この度、設立総会の運びとなりました。

剣道部の長き歴史において、今まで正式なOB会が無かったことそのものが不思議でありましたが、OB諸氏の賛同を満場一致で得ることができました。

当日は、水戸一高体育館での稽古会に始まり、設立総会を経て、元慶応義塾大学学長・全日本学生剣道連盟会長であります鳥居泰彦先輩による「剣の心—水中剣道復活62年—」と題した記念講演が催され、「剣憂国難」という剣道の時代の変遷と「生涯剣道」に心打たれ、「剣の心」に思いを馳せた諸氏も多かったことと思います。

懇親会では、年代を超えて歓談の花が咲き、最後に校歌を大合唱し盛会のうちに散会となりました。

なお、OBと生徒との交流を深めるために、毎年1月に稽古会を行うことにしました。次回は、平成27年1月10日(土)午後 水戸一高体育館です。奮ってご参加を。



新刊紹介

水濱電車

小野寺靖 著
定価1300円

昭和41年まで水戸と大洗を結ぶ電車があった。戦前から通勤通学はもちろん県内外の海水浴客・小中学校の遠足の交通手段としても親しまれた電車は、自動車の普及に合わせ旅客が減少、ついには道路上から追われる。本書は停留場や駅舎を資料から丹念に拾い上げ、路線のなごりを現地に訪ねて往時をしのぶ。電車事業のOBからも聞き取りしてまとめられた労作。

問い合わせは著者へ
電話0296-43-7404



水戸学逍遙

但野正弘 著
錦正社刊 定価2300円

本書には水戸史学会理事・事務局長である著者が平成18年から24年までに執筆した論文が収載される。義経に対する光圀の人物評と心情の葛藤を紹介し、東日本大震災を契機に日本史上に残る各地の大震災の記録を確認、ドラマ・映画で描かれる水戸藩と史実との乖離を語るなど、著者は様々な視点から水戸学・水戸史学の歴史を紐解きつつ私たちを歴史散歩に誘おう。

問い合わせは著者へ
著者住所 水戸市笠原町979-42



親睦委員会

【ゴルフ】

第35回知道会ゴルフ大会を平成26年6月5日（木）に大洗ゴルフ倶楽部で開催いたします。詳細については既に知道会ホームページで参加申込書を添付してご案内しておりますとともに、直近5年間の参加者については、はがきにてご連絡する予定です。下記知道会事務局へのメール・FAX・電話にて随時申し込みを受け付けております。プレーするのは同じ知道会の先輩、後輩という同窓生です。名門大洗ゴルフ倶楽部で楽しいひと時を過ごしていただければと思います。

【ミニ歩く会】

第11回ミニ歩く会（岩間コースの予定）を開催します。
平成26年9月27日（土）

【申込み・問合せ先】

知道会事務局 月・水・金曜日 10:00～15:00
TEL 029-226-3960
FAX 029-226-4157
E-mail chidokai_mito@chidokai.jp

財務委員会

【振込用紙が封入されている方は会費が未納】

知道会の会計年度は10月から9月までとなっており、知道会報の奇数号（10月発行）をお送りする際に年会費の振込用紙を封入して納入をお願いしています。本誌第84号（偶数号）に振込用紙が封入されていれば、年会費が未納です。早めの納入、口座振替による納入にご協力をお願いします。

第63期 知道会幹事会及び委員会名簿

顧問	後藤卓三(昭19)、西野虎之介(昭23)、小田部幹夫(昭48)
会長	角田芳夫(昭28)
副会長	永井靖彦(昭35)、川又諭(昭38)、☆朝日一(昭41)、助川裕(昭42)
幹事長	栗原英則(昭48)
副幹事長	深谷新太郎(昭57)、河野秀幸(昭63)
総務委員会	*◎粉川勝(昭42)、◎大内常男(昭43)、*◎木戸明良(昭47)、三上靖彦(昭52)、横山伸一(昭53)、後藤直樹(昭54)、後藤岳志(昭54)、堀江英夫(昭55)、☆飯塚博之(昭56)、☆菊地功(昭57)、黒木雅宏(昭58)、大谷基道(平1)、竹村広治(平3)、☆倉田章吾(平3)、☆住谷則昭(平4)、川崎篤之(平8)、星野博史(平11)、☆細田明俊(平14)
財務委員会	*◎板橋義則(昭40)、*◎西山良昭(昭41)、大金誠(昭42)、後藤克己(昭43)、皆川真規夫(昭45)、勝山文久(昭45)、*◎根本祐一(昭46)、関田國作(昭53)、伊藤道子(昭53)、佐藤昌樹(昭55)、太田聖史(昭58)、仲田留美(昭63)
名簿委員会	*◎奥野茂雄(昭44)、*◎水口二郎(昭47)、野村貴広(平7)
広報委員会	*◎宮内寿子(昭47)、*◎川又敏郎(昭49)、*◎和田宏(昭51)、内藤学(昭53)、飯村雅明(昭55)、橋川栄作(昭56)、平井夏樹(昭56)、森田真理子(昭56)、平山桂己(昭59)、鈴木圭輔(平5)、海老澤佳之(平9)
親睦委員会	*◎富永潤一(昭46)、佐藤衛(昭47)、*◎小林圭子(昭48)、小野瀬慈(昭52)、*◎君和田利智(昭57)、星野幸子(昭57)、黒澤広忠(昭58)、高林憲一(昭58)、小澤一利(昭58)、高橋淳子(昭58)、原口哲也(昭60)、磯崎雄司(平1)、海老根武(平2)、濱野正之(平4)、鹿志村茂(平5)、加藤尚弘(平6)
幹事	*稲葉節生(昭38)、*横山仁一(昭47)、☆*檜山隆雄(昭49)、今関裕夫(昭50)、☆*吉原美彦(昭57)、☆*土井宣弘(平3)
監事	坂本和重(昭48)、篠原勉(昭48)
事務局	古平恒夫(昭37)、渡辺和子(昭47)

()卒業年次、*幹事、◎委員長、○副委員長、☆新任

物 故 者 (H25.9～H26.3 迄にご連絡を頂いた方を掲載しました。)

旧職員 長谷川藤太郎	昭16中 野中 昇	昭25高 照沼 好文	昭30高 川又 美紀
旧職員 秋田 忠介	昭17中 内海 博	昭25高 檜山 泰宏	昭30高 清水 秀一
旧職員 藤 安雄	昭17中 岸本 正	昭25高 石井 文二郎	昭30高 横山 晴一
旧職員 藤田 稔	昭17中 小林 健	昭25高 宮本 進	昭31高 小林 功
旧職員 宮本 進	昭17中 宮山 徹	昭25高 飛田 幸康	昭33高 蓮沼 修
昭6中 坂 敬信	昭17中 二宮 嘉計	昭26高 大沢 良昭	昭33高 小杉 茂
昭8中 荒川義市郎	昭19中 秋永 洋七	昭26高 住谷 信明(清)	昭34高 村山 元哉
昭9中 前田 義里	昭19中 飯嶋 正敏	昭26高 仁平 裕丈	昭36高 小林 正男
昭11中 河和田唯賢	昭19中 泉田 忠昭	昭26高 菊池 正一	昭36高 沼尻 太平
昭12中 大和田 泉	昭19中 益子十四夫	昭26高 吉成 和夫	昭37高 海老沢邦彦
昭12中 尾崎 則夫	昭19中 茂木 貴人	昭26高 箕輪 順	昭38高 仁平 武美
昭12中 木内 信基	昭19中 渡辺 孝	昭26高 栗山 幸夫	昭38高 松浦(持丸)博
昭12中 兵動 政治	昭19中 安島 光二	昭26高 飯田 誠一	昭38高 野田 公照
昭13中 所 善文	昭20中⑤加藤 一嘉	昭26高 飛田 昌彦	昭39高 寺門 昌之
昭13中 城所(中山) 仍	昭20中④玉川 英一	昭26高 大和田龍夫	昭41高 永田 正勝
昭13中 古渡 実	昭22中 嶋崎 和夫	昭26高 岡崎 博	昭41高 大金 文郎
昭14中 小林 敬文	昭22中 山崎準之助	昭27高 天野(大高)等	昭41通 川崎(小浜)洋子
昭14中 大石 泰彦	昭23中 荒木 五郎	昭28高 寺門 俊男	昭42高 金子 修一
昭15中 関 陽三	昭23中 佐藤(増子) 英男	昭29高 守屋 孝	昭44高 平戸 邦俊
昭15中 矢野 健男	昭23中 小林 健次	昭29高 歌川修一郎	昭46高 小室 徳蔵
昭16中 泉川 勇	昭23併 岡部 幸雄	昭29高 黒沢 尅夫	昭47高 深谷 弘
昭16中 館野 市郎	昭24高 荒木 五郎	昭29高 大原 邦夫	昭55高 檜山 平
昭16中 永井 守久	昭25高 萩原 五郎	昭29高 田中 昭	

【事務局だより】

3月1日は水戸一高の卒業式でした。制服が自由化されてから40年以上の月日が経ち、生徒の服装の変化にも時代を感じていましたが、それを特に感じたのが、卒業式の女子の袴姿です。今や、女子生徒の数は、学年全体の4割を超えていることもあり、その華やかさには驚きました。知道会館の窓からは、薬医門で父兄と写真を撮る晴れやかな光景が見られました。

学校基本データ

学校創立	1878年(明治11年)10月2日
平成26年	創立136年
同窓会員数	37,475人(平成26年5月現在)
住所判明者	22,024人
在籍生徒数	971人(男子558人、女子413人) (平成26年5月現在)